

令和6年度 一般廃棄物の排出状況について

1 家庭系ごみの収集量(実績値)の推移

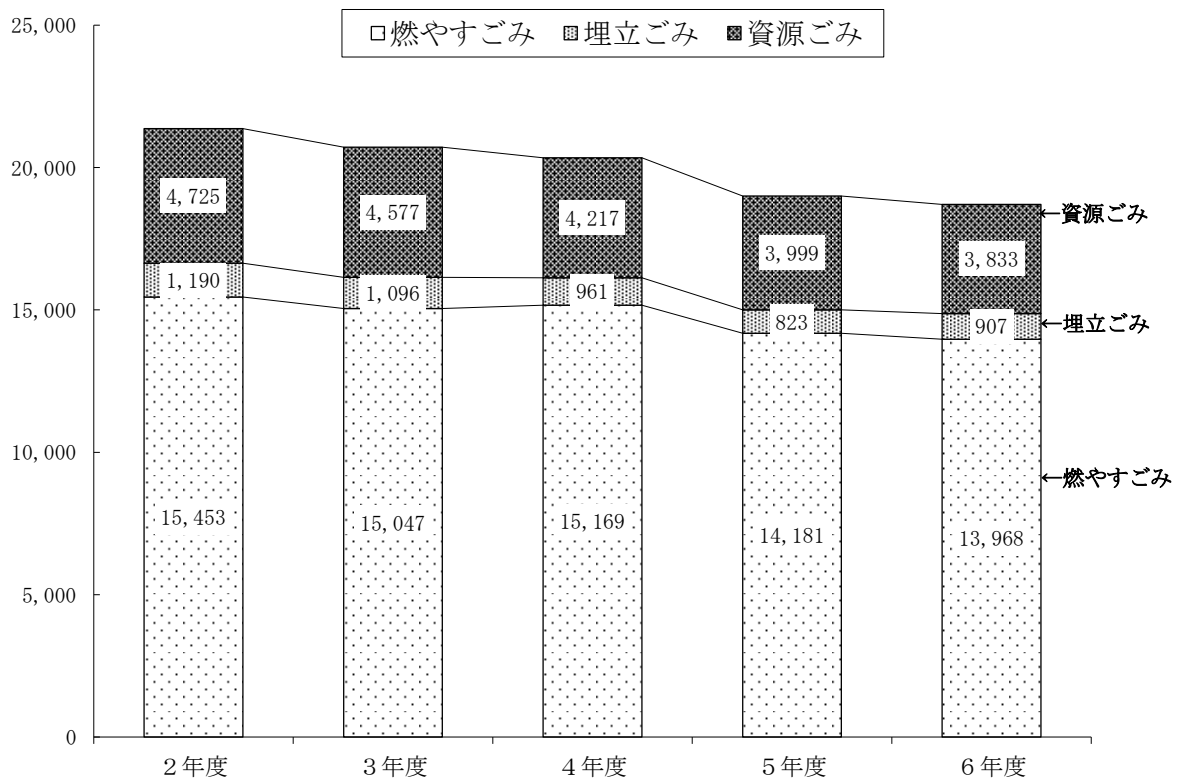
年度別ごみ量の推移 (家庭系一般廃棄物)

項目		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	対前年度 比率 %	
人口(9月末時点住民基本台帳人口)*		人	99,701	98,588	97,480	96,398	95,076	-	
ごみの収集量(家庭系一般廃棄物)(C) (市が所管するごみ収集量+直接搬入量)	計画値	t/年	21,103	20,462	20,127	19,797	19,498	-	
	実績値	t/年	21,368	20,720	20,347	19,003	18,708	98.4	
処分ごみ(A)		実績値	t/年	16,643	16,143	16,130	15,004	14,875	99.1
燃やすごみ	計画値	t/年	12,883	14,394	14,187	13,480	13,279	-	
	実績値	t/年	15,453	15,047	15,169	14,181	13,968	98.5	
埋立ごみ	計画値	t/年	1,133	1,002	965	936	904	-	
	実績値	t/年	1,190	1,096	961	823	907	110.2	
うち火災ごみ		実績値	t/年	142	109	78	0	95	-
資源ごみ(B)		計画値	t/年	4,541	4,385	4,330	4,774	4,741	-
		実績値	t/年	4,725	4,577	4,217	3,999	3,833	95.8
紙資源		実績値	t/年	2,417	2,281	2,066	1,825	1,673	91.7
金属資源		実績値	t/年	574	538	462	441	401	90.9
ガラスびん		実績値	t/年	357	360	335	315	305	96.8
ペットボトル		実績値	t/年	45	44	43	42	39	92.9
プラ資源		実績値	t/年	1,305	1,315	1,282	1,350	1,378	102.1
特定ごみ		実績値	t/年	24	36	24	22	34	154.5
蛍光管		実績値	t/年	3	3	5	4	3	75.0
再資源化率(B/C)		計画値	%	21.5	21.4	21.5	24.1	24.3	-
		実績値	%	22.1	22.1	20.7	21.0	20.5	-
一人当たりのごみの収集量(家庭系一般廃棄物)		実績値	kg/人・年	214.3	210.1	208.7	197.1	196.8	99.8
処分ごみ		実績値	kg/人・年	166.9	163.7	165.5	155.7	156.5	100.5
燃やすごみ		実績値	kg/人・年	155.0	152.6	155.6	147.1	146.9	99.9
埋立ごみ		実績値	kg/人・年	11.9	11.1	9.9	8.5	9.5	111.8
資源ごみ		実績値	kg/人・年	47.4	46.4	43.2	41.5	40.3	97.1

*住民基本台帳人口に外国人含む。

計画値は飯田市一般廃棄物(ごみ)処理計画(令和3年度~6年度期)による
端数処理をしているため、値の合計が合わない箇所があります。

年度別ごみ量の推移



2 分析

令和6年度のごみの収集量（家庭系一般廃棄物）の合計は18,708tで、前年度対比295t、1.6%の減少となりました。また、「飯田市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」（令和3年度～令和6年度）における計画値19,498tに比べると790t下回りました。

(1) 処分ごみについて

燃やすごみと埋立ごみを合わせた処分ごみの収集量は14,875tで、前年度対比129t、0.9%の減少となりました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大が始まった令和2年度をピークに、処分ごみ全体では減少傾向にあります。但し、埋立ごみについては、前年度を10%ほど上回っています。これは火災ごみの受入が要因と考えられ、火災ごみを除くと、前年より約11tの減少となっています。この減少については、人口減少によるもののほか、一人当たりのごみの収集量が減少していることから、市民の皆さんにごみの減量に取り組んでいただいた結果と考えられます。ただ、稲葉クリーンセンターに家庭から直接搬入されるごみが、昨年度よりも増加しました。家の片付け等による家財ごみが以前より活発になってきたことも原因として考えられます。

(2) 資源ごみについて

資源ごみの収集量は3,833tで、前年度対比166t、4.2%減少しました。令和2年度以降、全体としては減少傾向になっています。内訳では、金属資源が前年比9.1%と最も減少が大きく、紙資源が8.3%、ガラスびんが3.2%、ペットボトルが7.1%とほとんどの項目で減少しました。この傾向は、近年の市内大型店舗での紙資源をはじめとする店頭回収が市民生活に浸透していること、プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律に基づく販売時の包装等の簡素化等によるものと考えられます。一方で、令和5年度から、プラ資源としてプラスチック製品の排出ができるようになり、プラ資源については、前年度比2.1%の増加になりました。これは、プラスチック製品を資源ごみとして回収し始めたことによるリサイクルの取り組みによるものと考えられます。

(3) 再資源化率について

資源ごみの量をごみの収集総量で除した再資源化率は20.5%と、前年度より若干減少しました。店舗回収利用が進み、資源ごみの収集量は減少していることと、処分ごみの収集量も減少したこととほぼ横ばいになっている状況です。

(4) 一人当たりのごみの収集量について

令和5年度と比較して0.3kg、率にして0.2%と若干の減少に留まりました。火災ごみの影響で埋立ごみが前年度より増加したことが起因と考えられます。

3 課題と今後の取組

燃やすごみは減少傾向にありますが、再資源化率については、横ばいになっています。資源ごみの店頭回収の浸透等により、市が回収する資源ごみの量が減少しているとはいえ、燃やすごみ、埋立ごみの組成調査では、分別ができていないごみの排出が数多く見られます。特に、燃やすごみにはリサイクル可能な雑がみが多く混入しています。

このため、令和7年度は雑紙分別啓発袋の配布により、リサイクルできる雑紙の分別排出の啓発を図っていきます。また引き続き、燃やすごみとして排出される生ごみの減量化に向けて、生ごみ処理機器購入補助金により、市民が取り組む生ごみの自家処理の支援を行っていきます。

更に「ごみリサイクルカレンダー」や「分別ガイドブック」といった既存の広報媒体や、広報いいたの特集記事、映像媒体による資源化推進の啓発、スマートフォン等を媒体とした「ごみ分別アプリ」の活用、加えて各地区環境衛生担当委員会と協働して各地区におけるごみ分別学習会を開催するなど、多面的な啓発活動を継続して、ごみの分別の徹底を進め、再資源化率の向上につなげます。